

●当初の課題・事業目的

3年間のコロナ禍で多くの情報と居場所、日々の何気ない会話が失われ、安心して子育てをできる環境が著しく減った。コミュニケーションを取る機会も減り、情報をキャッチすることが難しくなり、地域とのつながりがないまま子育てをしている世帯が増えた。官民 mix の資源を可視化し、子育て世帯へ情報を届けるために情報誌を作成した。また、支援者同士も互いを知ることで、市内の子育て支援をボトムアップすることを期待した。



理事長 坂口 裕子

●事業概要

西宮で子育てをしている市民や支援団体が協力をし、子育て中の市民へのアンケートをもとに企画運営した。にしのみや子育てマガジン tomoni vol.2(秋冬号)を2023年10月末に一万部、tomoni vol.3(春夏号)を2024年2月末に五千部発行。(創刊号を2022年度に発行。)

市内の公共機関、市役所・支所・子育て広場・図書館・保健センターへは市民協働推進課の協力を得て配架した。民間の支援団体や企業・商店・産院・小児科などには手渡しの他、郵送で届け設置を依頼した。

地域全体で子育てを応援する町になるために、企業・商店・医院を周り、広告・協賛を募集し、市民団体19団体・企業・店舗33社、医院4院の協力を得ることができた。

地域情報サイト「西宮つーしん」と協同しウェブサイトを開設し、より多くの子育て世帯に情報を提供できるようになった。



●事業の成果・工夫した点

毎号アンケートを行い、子育て世帯のニーズをはかり紙面を作った。多くの読者から新しい情報や人に伝えたい情報を得ることができたと回答を得られた。読者から発信に参加したいとの声上がり仲間が増えた。資金面では広告・協賛を得ることで持続可能な事業として発展していく光が見えた。

●苦勞した点・今後の課題

編集員は子育て中の市民ボランティアで構成しているため、広告・協賛などを集めるために営業へ回る時間を捻出することが難しかった。仲間をさらに増やしていく必要がある。公共機関での配架は市の後援があることが前提にあるため、未来づくりパートナー事業を卒業した後の公共機関での配架の道筋がまだ見えていない。

●参加者のコメント

編集員として活動することで西宮市内の様々な資源に触れることができました。子育てしながら、仕事をしながらの活動は大変だったと感じる一方で、自分自身も情報を得て、人と場所とつながることができたことで、さらに西宮の町を好きになり、日々が楽しくなりました。今後も情報発信を続けていきたいと思えます。ありがとうございました。編集員より。